

# 地域とともに

第4号

<2012年1月20日発行>



静岡大学 地域連携協働センター  
Center for Regional Collaboration



## 目次

■防災総合センターの活動について	2
防災総合センター長 増田 俊明	
■高柳記念未来技術創造館の活動について	3
電子工学研究所准教授 青木 徹	
■さまざまな地域連携のかたち	4
□梅ヶ島と静岡大学と農援隊と。一重層的な地域連携への挑戦	
農学部助教 富田 涼都	
□大学からの社会連携活動	
イノベーション共同研究センター准教授 清水 一男	
□「静大フェスタ」を実施して	
広報室長 北川 陽子	
■イベント・活動等 報告（23年7月～24年1月）	9
■地域向けイベントのお知らせ（24年1月～3月）	12

## 防災総合センターの活動について

防災総合センター長 増田 俊明



静岡キャンパス大学会館1階 防災総合センター

防災総合センターは、3つの部門（教育部門、研究部門、地域連携・ボランティア部門）を柱に構成されており、災害時における危機管理能力の底上げを目指し、地域の防災力向上に資することを目的として設立された組織です。現在、専任教員2名、特任教員2名、併任教員16名、客員教員25名、学術研究員3名、サポートスタッフ3名、総勢51名が所属し、それぞれの部門で各々が特性を活かし緩く連携して活動しています。

センターが発行した書物に「支援者のための災害後のこころのケアハンドブック（2010.1）」と「地震から、キミを守る命のパスポート（2011.3）」があります。「こころのケアハンドブック」は防水加工を施し、文字を大きくするなど改良を重ね、希望する教育機関に配布してきましたが、震災後は特に被災地の学校で需要があり、現在、岩手、宮城、福島、茨城県内すべての学校に行き渡らせることができました。

また、教育部門で現在最も力を注いでいる事業に「静岡大学防災マイスター」と「ふじのくに防災フェロー」があります。「防災マイスター」は一定レベルの防災

知識を備えた学生を養成し、社会に送り出すことを目的とし、今年度教育学部からスタートしました。修了認定を受けると「静岡大学防災マイスター」の称号を授与されます。

「防災フェロー」は科学技術振興調整費（科学技術戦略推進費）による「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」事業に採択され、2011年3月より養成講座を開講しています。この講座は災害の事前予防を目指し、地域の災害特性を理解し、災害に関わる科学的情報を読み解ける、実践的応用力を身につけた人材を育成することを目的としています。講師陣は日本を代表する第一線で活躍中の地震・津波・火山・地球化学・治水などの研究者が名を連ね、密度の濃い講義・演習を受講できるという大変贅沢な内容となっており、修了すると静岡県から「防災フェロー」の称号を授与されます。この3月には記念すべき第1期生の修了者を送り出す予定です。

研究部門では、所属の教員が東北の被災現場に調査研究に赴き、その研究成果を学会等で発表しています。また、静岡平野で過去大津波があったことが解り最近マスコミ等を賑わせましたが、これも本センターと産業技術総合研究所活断層・地震研究センターの共同研究により判明したものです。

地域連携ボランティア部門では、東北被災地への学生ボランティア活動を支援しました。

東日本大震災以降、学校現場のみならず世の中の防災意識が非常に高まり、本センターへの期待も大きくなってきています。センターの活動を知って頂くことは、防災知識向上にも大変役立ちますので、本センターのウェブサイト・ブログ・ツイッターも是非ご覧ください。



センター刊行物（左）と防災フェロー講義風景（右）

Web : <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/>

Blog : <http://sbosai.cocolog-nifty.com/blog/>

twitter : sbosai



## 高柳記念未来技術創造館の活動について

電子工学研究所准教授 青木 徹



高柳記念未来技術創造館は、昭和36年にテレビの父、高柳健次郎先生の業績をたたえて寄付により建てられた高柳記念館をもとに、平成19年11月にこちらも寄付により全面的にリニューアルして高柳記念未来技術創造館として広く地域の皆様方にも開かれた施設としてスタートしました。

高柳先生の業績と産業や文化への展開、また、現在の静岡大学や卒業生の活躍を展示した2階の展示室と交流の場としてのコミュニケーションサロンの1階ラウンジをコンパクトにまとめた2階建ての施設です。年間およそ5,000名の利用者があり、一般市民の皆様の見学に加え、地域の小中学生や大学見学に訪れる全国の高校生、本学卒業生や共同研究、研究会などで本学へ来学されたお客様など幅広い方々のご見学をいただいております。

展示室は、1) 高柳先生が本学（前身の浜松高等工業学校）で研究をしていた頃の業績、すなわち「学問」から「技術」へ展開していた頃の業績、2) 「産業」へ展開していった頃の展示として歴代のテレビセットを多数集めた藤岡コレクション、3) 「文化」への展開の一部としてテレビジョンの応用の展示、からなる高柳先生の学問→技術→産業→文化といった一連の業績の展示がおおよそ面積の半分となっています。残りの半分は、ご寄付をいただいたスポンサー企業様の展示コーナーがあります。こちら、本学卒業生の活躍ぶりやものづくりの大切さを来館された皆様にご理解いただける展示をしていただいております。その他、卒業生が活躍する地域の企業の「世界一」を展示するコーナーと共に、現在の本学のアクティビティーを示す研究紹介や卒業生の活躍の展示コーナーを設け、さらに静岡、浜松両キャンパスに渡る本学全学



2階展示室での先端展示

部の資料を取りそろえて、お客様のご要望にお応えしています。また、今年度、静岡大学発ベンチャーの製品展示も始め、現在3社の展示をしております。こちらは今後拡充し、高柳先生の頃からのスピリットである、学問を産業へ、そしてその先の文化までつなげようというキャンパスの意気込みを展示していきたいと考えています。

1階のラウンジは、本キャンパスで多数開かれている国際会議や研究会の交流会会場として、また、各種教育や地域連携の発表会などに広く使われております。シックで落ち着いた内装は、狭いながらも少し大人の雰囲気も提供することができ、親密な交流の起点となる重要な役割を果たしております。AV機器もそろえられており小学生などの訪問の際にも説明やビデオの視聴会場として利用されております。また、サイエンスカフェ in浜松や重点分野交流会、テクノフェスタでの特別展示といった本館主催の行事もここで開催しております。

平日はおおよそ説明のボランティアをお願いしており、展示について説明を受けることができます。月曜休館ですが、土曜日曜も朝10時から夕方4時まで開館しておりますので、機会がありましたら展示をご覧の上高柳スピリットに触れていただき、是非、未来の技術を想像するきっかけにいただければと思います。ラウンジも有効にご活用いただき、本館がものづくりの原点となる、人と人との交流をもとに日本の、世界の明るい未来を築く場所となってくれることを願っております。

記念館のウェブサイトは以下よりご覧ください。  
<http://www.nvrc.rie.shizuoka.ac.jp/takayanagi/>



1階ラウンジでの発表会

## 〈さまざまな地域連携のかたち〉

## 梅ヶ島と静岡大学と農援隊と。—重層的な地域連携への挑戦

農学部助教 富田 涼都



梅ヶ島・大代地区

静岡市梅ヶ島地区で展開している静岡大学の地域連携の活動は、ひとつの組織と地域という一対一ではなく、重層的なものとして展開し、文字通り新たな「地域連携」への挑戦となっています。そして私自身、そこに非常に刺激を受けながら教育・研究活動を行っています。その梅ヶ島との地域連携の姿について紹介したいと思います。

## 〈はじめは農業環境教育プロジェクト〉

静岡大学と梅ヶ島との地域連携は、5年前から行われている「農業環境演習」が始まりです。この取り組みは教育機関としては初めて静岡県が進める「一社一村しずおか運動」に認定されました。

「農業環境演習」とは、中山間地域を農業環境教育及び社会教育の場とし、地域社会への貢献と学生教育の両立を目指そうとしている演習です。3年にわたるプログラムでは、学生は年間10日以上農村体験を3年間続けます。1年目は農村生活の実態を感じ取る「体験フェーズ」、2年目は自らの体験から探求すべき課題を発見する「課題探求フェーズ」、3年目は探求した課題の解決策を試行し農業問題に向き合うための資質を磨く「環境リーダー養成フェーズ」とステップアップしていきます。農業環境演習に参加する学生たちは、土日の訪問や講義時間外などを使いつつ、さまざまな課題に自主的に取り組んでいくことが求められます。

そして、3年間の成果をもとに審査を受け、合格す

れば農業環境リーダーの称号が認定されます。農業環境リーダーに認定された学生は、後輩たちの引率や、演習に取り組む際のアドバイスなど、農業環境演習の運営にも携わっていきます。2011年度からは、梅ヶ島だけでなく、富士宮市の上稲子地区においても、同様のプログラムが開始されています。

この演習は、単に梅ヶ島の活性化だけを目的としているのではなく、よりグローバルな中山間地問題や農業問題において活躍する人材の育成を目指しています。しかし、この演習の履修学生や修了生、そして関係教員がこの農業環境教育プロジェクトを通じて梅ヶ島とかかわっていくことで、これから述べる、より多様な取り組みを展開していくことになりました。その意味でこのプロジェクトは、梅ヶ島を舞台とした重層的な地域連携の起点の役割もしていると言えるでしょう。

## 〈ホームカミングデーの取り組み〉

梅ヶ島の多様な取り組みの中でも「農業環境演習」に関係する学生が主体となり、地域と連携しながら続けているのが、夏休み中に梅ヶ島・大代地区で開催されているホームカミングデーです。

ここでいうホームカミングデーとは、むらで生まれ育ち、進学や就職、結婚など様々な理由で他の場所に移り住んだ人、すなわち他出者（たしゅつしゃ）を中心に、むらに縁のある人が帰ってきて一堂に集う日のことです。その日に何かお祭り（イベント）を企画することで、故郷のむらに帰ってくるきっかけをつくり、世代や家族、出身を超えて一堂に集うことで、故郷の



ホームカミングデー参加者と記念撮影





ホームカミングデーの流しそうめん

よさを他出者が再認識したり、むらが華やいで参加者が元気になったり、そういう元気な村をアピールしたりすることがねらいです。その延長線上に、他出者のUターンや地域間連携の芽があるかもしれません。人口減少社会に突入した日本にとっては、それは中山間地だけの問題ではなく国全体の問題にもなります。

ホームカミングデーはそうした問題の解決にむけた一歩を楽しく踏み出せないか、という試みです。初回は2010年に行われました。2011年のお盆には静岡大学「地域連携応援プロジェクト」の助成を受け、第二回のホームカミングデーが行われました。

この企画は、地域住民の協力なしには開催できません。学生たちは、自主的にむらの人との話し合いを重ね、他出者のひとびとに招待状を出したり、当日の企画運営を考えたりしながら準備を進めていきます。

目玉企画は長さ234mの流しそうめん、そのためには大量の竹が必要になります。しかし、梅ヶ島は標高の高い山間地なので竹林は多くありません。そこで、今年は竹を静岡大学構内から伐り出しました。開催日の数日前から伐り出しを行い、節を抜いて竹樋に加工します。曲がりくねった集落の道にそうめんが滞りなく流れるように竹樋を設置するのは骨の折れる作



準備も地域住民と学生が協働で行います

業です。こうした準備も、学生と地区住民の協働作業で進められていきます。

2011年のホームカミングデーでは、流しそうめんのほかに、竹細工づくりなどの各種の企画が行われ、地区住民や他出者、学生そのほかの縁がある人が集まって夏のひと時を楽しみました。おそらく、むらぐももっとも賑やかな1日になったことでしょう。その模様は、SBSテレビや静岡新聞などにも取り上げられて後日報道されました。また、このときの思い出を残し、当日帰ってこられなかった他出者とも共有できるように、学生の手作りアルバムが制作され、むらの一軒一軒に手渡されています。

### <そして農援隊へ>

梅ヶ島との地域連携は、これまで紹介したような農業環境演習やホームカミングデーのような静岡大学の学生や教員の取り組みを起点としつつも、静岡大学との連携という枠すら飛び越えて広がっています。静岡大学だけでなく、静岡英和学院大学や東海大学といった近隣の大学の学生や教員、梅ヶ島の若い世代の住民などの文字通り志を持つ人が結集して「農援隊」として活動を開始しています。もちろん、地域の未来がどうあるべきか、それは簡単に答えの出ることはありません。仮に「活性化」といっても、具体的に何がどうなればよいのかを外から決め付けても意味がありません。そのため、地域住民とともに、そして多様な人材が集いながら、一緒に身体を動かしながら追究していく必要があります。現在は、静岡市の補助金を元に梅ヶ島の町内会が中心となって行っている「これ一番事業」と連動しながら、観光業と農業が連携して梅ヶ島の魅力を広く発信していくことなどに取り組んでいます。しかし、農援隊の取り組みも、梅ヶ島にとどまらず他地域との連携などを通じて全国の農村・農業のあり方を変えていくことを将来的な目標としています。

このように梅ヶ島をめぐる地域連携は、異なる目的や出自、人的ネットワークをもった取り組みが、お互いに刺激しあいながら重層的に進んでいます。地域では多様な問題解決が求められる一方で、個人やひとつの組織が対応できることは限られます。だからこそ、いくつもの地域との二人三脚で行われる取り組みが相互に刺激しあい重層的に行われている梅ヶ島の一連の取り組みは、「地域連携」の新しい、そしてより実効的なかたちを指し示しているのではないのでしょうか。

〈さまざまな地域連携のかたち〉

## 大学からの社会連携活動

イノベーション共同研究センター准教授 清水 一男



私はイノベーション共同研究センターという静岡大学の（主には）企業と大学を繋ぐ産学連携を推進する組織の専任教員として活動しています。産学連携を推進する活動は、例えば素晴らしい研究成果や論文発表などと異なり表に現れない活動がほとんどで、黒子の立場として活動していると言えます。しかし、地方大学として教育、研究に加えて産学連携を含む社会連携を推進することは今や必須であり、華々しくはありませんが誰かが担わなくてはなりません。本稿では主に昨年度から今年度にかけて私が行ってきた産学連携を通じた社会連携活動をご紹介します。

社会連携の対象は1. 地域住民、2. 地域行政組織、3. 地域企業、4. 学生、5. その他に分けて考えることができ、全てに私が関わることは実際に困難ですが、関係した事案について1から順に概略をご紹介します。

## 〈1. 地域住民への連携活動〉

私が携わってきた活動で浜松地域の方々には直接触れ合う機会というのは中日新聞社との連携講座が一番大きいと考えております。静岡キャンパスでは生涯学習教育研究センターを中心に読売新聞などとの連携講座などを行っていますが、浜松キャンパスでは中日新聞社と提携した講演会を一昨年度の静岡大学創立60周年を機に開催することとなりました。今年度の連携講座は基調テーマを「3.11以降をどう生きるか 地域の再生と絆作りのために」として行っています。これまで各回50名程度の地域の方々を受講生として熱心

に聴講していただいております。アンケート結果からも好評を博しているようです。

## 〈2. 地域行政組織との連携活動〉

私の活動を振り返ると、意外と大学と地域行政組織との連携をまとめる活動が多いな、というのが実感です。例えば2009年度になります静岡県、研究機関および静岡県立大学との連携協定の締結がありました。これは新聞などでも報道されたのでご存知の方も多いかと思いますが、大学を含めた各研究機関が産業界への技術支援、人材育成支援、研究員の交流促進、学生のインターンシップ、共同研究の推進、機器類の相互利活用推進などを目的として協定が結ばれたものです。各機関ともに様々な考え方を持っており、必ずしも一枚岩といえない面もありますが、議論を重ねるなど調整を行っており、現在も進行形の案件です。

浜松市とは産学官連携に関して別の組織（はままつ産業創造センター）を介しながら様々な産学官連携を推進するイベントを実施してきました。例えば浜松市では長年、ものづくりに携わり実績を挙げられた方々を「ものづくりマイスター」として認定しましたが、その選考委員や候補者などの選定や依頼など、実際にコーディネータの方々と地域を走り回りお願いに上がることもありました。主に「地域NW会議」という行政、大学、金融機関の関係者からなる組織の活動を通して行ってきました。私自身が委員を務めるのではなく、正に黒子の役割ですが、このように熱心に活動される行政の方々や企業、金融機関の方々との交流を通



静岡大学・中日新聞連携講座の様子



左から静岡県立大学長、静岡県知事、前静岡大学長による連携協定の様子





研究室で学生と実験中の様子

じて、なぜ浜松が「ものづくり」を基盤として産業が広く根付いているのかを改めて認識させられる機会となりました。

### <3. 地域企業との連携活動>

現在、私は「マイクロプラズマを用いた応用技術の研究開発」をテーマに研究を行っており、大学院生やポスドクがこのテーマに関係した研究を進めています。特に昨今、室内空気などの環境が話題になることが多く、研究とは別に技術相談も年間数件受けています。必ずしも地元の中小企業ばかりではなく、日本を代表するような大手企業からの依頼もあります。地元の企業からは特に食品分野の殺菌、(分野の詳細は記せませんが) 汚臭対策、除菌・院内感染対策、医療研究などの相談をいただいております。様々な業界からご相談いただくことを楽しみに感じております。もちろん共同研究に繋がらず技術相談に止まることも多々ありますが、地方大学として地域企業に貢献することは、大学の持つ一つの社会連携の在り方として、今後ますます重要になってくるものと考えています。静岡大学の多くの先生方にも、より関心を持っていただければと考えています。

### <4. 学生への教育>

本学では多くの先生方が学生や地域の方々と一緒にボランティア活動などを行っていることも本業務に関わり実感しています。しかし、参加する学生は、意識の高い一部の学生に限られているのが現状です。浜松という地域は京都と並び日本全体から見ても産業集積が進んでいるクラスター(集合体)として有数の地域です。国レベルの予算(産業クラスター、知的クラスター)に大きく関連している研究室の学生はそのことを知っているのですが、それ以外の学生はほとんど知らないのが現状です。この事実にあまりにも「もったいな

い」と思い、学生に静岡大学がいかに関係を推進しているかを学んでもらうことが大切であると考えました。そこで、様々な先生方と相談して、2008年度から学際科目(教養科目)として「地域社会連携を考える」という社会科学的な科目を工学部、情報学部3年生を対象として開講することになりました。本講義は市民開放授業としても登録しており、地域の方々にも聴講していただいております。日本国内のクラスターの比較、諸外国でのクラスターの事例の紹介などと合わせて静岡大学にこれまで国レベルの研究費が投入された事例を話し、学生の意識を高めています。また、これまでの活動でお世話になった方々(行政、大学など)を講師としてお招きし、浜松だけでなく静岡でのボランティア活動から厳しい産学連携の実情など幅広い内容でお話しいただいております。本講義は3年生を対象としていますが、講義後に学生の意識が変わることを目の当たりにしていることもあり、もっと早い段階、例えば1年生も対象にしたいと考えているところです。

### <5. その他>

社会連携に関する活動を簡単ですがイノベーション共同研究センターの専任教員の視点から記載してみました。社会連携活動は範囲が広く、私の活動が全てであるとはとても言えるものではありません。しかしながら個々の先生方が意識するしないに関わらず、先生方の教育・研究活動は多かれ少なかれ社会への貢献、連携に繋がっています。世界を相手に戦う最先端の研究も、地域へ学生を送り出すための教育も、静岡大学の中ではどちらも大切なものなのです。まだまだ意識されることも少なく、役割の上では黒子の部分が多い社会連携活動ですが、こうした活動も今後、表舞台へ出て行く日が来るのかと期待しながら、地域を駆け回る日々を送っています。



「地域社会連携を考える」の講義の様子

〈さまざまな地域連携のかたち〉

## 「静大フェスタ」を実施して

広報室長 北川 陽子



本学では、このたび大学開放事業の一環として静岡キャンパス及び浜松キャンパスで「静大フェスタ」を開催しました。「静大フェスタ」は、創立60周年を契機として、平成20年5月から毎年学外で実施してきたイベントですが、本年度からは、学生が主体的に実施している「静大祭」と同時期にそれぞれ「キャンパスフェスタin静岡」「テクノフェスタin浜松」として開催していくことになりました。

浜松キャンパスでは、恒例の「第16回テクノフェスタin浜松」が11月12日(土)、13日(日)の両日に開催され、キッズサイエンス、おもしろ実験、先端研究公開展示、研究室公開展示、受験生向けのオープンキャンパスに加え、静岡大学卓越研究者の紹介展示等も新たに実施されました。天候に恵まれ昨年に引き続き2日間で1万人を超える参加者がありました。おもしろ実験(57テーマ)では、理科教育への興味やものづくりの楽しさを体験してもらおうと工夫を凝らしたテーマを設け、学生等の指導のもと多くの親子連れの方々が実験・工作に取り組みました。毎年実験に参加しているという子どもたちや、大学の公開を楽しみ

にしているという地域の方々も多く、市民に親しまれ地域に密着した行事として根付いています。

また、静岡キャンパスでは「第1回キャンパスフェスタin静岡」が11月19日(土)、20日(日)の両日に開催されました。静岡キャンパスで初めて開催された本イベントでは、公開講演会、公開授業、シンポジウム、研究室訪問、おもしろ実験・体験、資料展示など多岐にわたる内容が盛り込まれました。おもしろ実験・体験では、初めて見る生物に目を輝かせながら様々な生き物に触れる子どもたちや、木工教室でもものづくりに熱心に取り組む参加者で賑わいました。19日(土)はあいにく雨天となり来場者数は伸びませんでした。東静岡駅からのシャトルバスや構内巡回バスなどの無料バスを準備し来場者の利便性を図ったこともあり、20日(日)には多くの来場者で賑わいました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

フェスタのウェブサイトは以下をご覧ください。  
<http://www.shizuoka.ac.jp/festa/>



キャンパスフェスタin静岡「しすっぴーと触れあう来場者」



テクノフェスタin浜松「セロテープとゴミ袋で作るスタンドグラス」



## イベント・活動等 報告 (23年7月～24年1月)

### ■静岡大学・読売新聞連続市民講座「地域から広がる可能性」

#### 【第3回】地域福祉と男女共同参画社会

日時：7月2日(土) 14:00～16:00

#### 【第4回】ICT(情報通信技術)の進展と地域社会～絆の再生と創造～

日時：8月6日(土) 14:00～16:00

#### 【第5回】若者の居場所

日時：9月3日(土) 14:00～16:00

#### 【第6回】静岡の過疎山村・限界集落における地域づくり実践

報告～縁側お茶カフェ・買い物ツアー・福祉朝市・お茶ツアー等々～

日時：10月1日(土) 14:00～16:00

#### 【第7回】地産地消と我が国農業

日時：11月5日(土) 14:00～16:00

#### 【第8回】地域から考える防災とジェンダー

日時：12月3日(土) 14:00～16:00

場所：静岡市産学交流センター(各回共通)

「地域から広がる可能性」をテーマに開講し、12月で全8回が終了しました。最終回には閉講式も行われ、6回以上出席された68名に修了証が授与されました(うち20名が全8回皆勤者でした)。

[生涯学習教育研究センター]



### ■防災講演会～東日本大震災を踏まえた今後の防災対策～

日時：7月23日(土) 10:30～11:45

場所：メロープラザ(袋井市)

防災総合センターの原田賢治准教授が「津波災害の特徴と対策について～東日本大震災の津波災害から今後の対策に向けて～」を演目に講演を行いました。

[防災総合センター]



### ■平成23年度静岡大学社会教育主事講習

期間：7月25日(月)～8月20日(土)

東海4県を対象とした社会教育主事講習が7月～8月の約4週間に渡り実施され、28名の参加がありました。

[生涯学習教育研究センター]

### ■公開講座「体験!大学の化学実験」

日時：8月6日(土)・7日(日) 10:00～16:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

この講座は、一般の市民、特に中高校生を対象に、実際に理学部化学科の3年生の専門科目で行っている実験の一部を体験できる場を設けようと実施したものです。今回のテーマは「水の分析」で、水中のカルシウムやマグネシウム、鉄分の分析を行いました。

[生涯学習教育研究センター]



### ■公開講座 静大キャンパス探訪～生物調査隊とキャンパスの自然を観察しよう～

#### 【第1回】夏に観察できる植物と鳥類

日時：8月6日(土) 10:00～12:00

#### 【第2回】夜の静大キャンパス～動物たちの生態～

日時：8月20日(土) 19:00～21:00

#### 【第3回】静大キャンパスの動物

日時：8月27日(土) 10:00～12:00

場所：静岡大学静岡キャンパス(各回共通)

静岡キャンパスの豊かな自然を教育や地域との連携に活かす目的で、2009年度から3年に渡りキャンパスの生物調査を実施しました。この度、この調査を担当した教職員を講師として、本公開講座を3回に渡って実施し、調査の成果を市民の方々に紹介しました。

[キャンパスミュージアム]



### ■静岡大学・コープしずおか連携講座「〈いのち〉と環境を考える」

#### 【沼津会場第1回】海のしくみと駿河湾深層水

日時：9月10日(土) 14:00～16:00

#### 【沼津会場第2回】遺伝子技術のゆくと〈いのち〉の現在

日時：9月24日(土) 14:00～16:00

#### 【沼津会場第3回】いのちの森を守る闘い～南方熊楠の思想～

日時：10月15日(土) 14:00～16:00

場所：沼津市民文化センター(各回共通)

#### 【静岡会場第1回】海のしくみと駿河湾深層水

日時：10月1日(土) 10:30～12:00

#### 【静岡会場第2回】いのちの森を守る闘い～南方熊楠の思想～

日時：11月5日(土) 10:30～12:00

#### 【静岡会場第3回】遺伝子技術のゆくと〈いのち〉の現在

日時：12月 3日（土）10:30～12:00  
場所：静岡市産学交流センター（各回共通）

**【浜松会場第1回】海のしくみと駿河湾深層水**

日時：12月10日（土）10:30～12:00

**【浜松会場第2回】遺伝子技術のゆくえと〈いのち〉の現在**

日時：1月 7日（土）10:30～12:00

場所：アクトシティ浜松（各回共通）

「〈いのち〉と環境を考える」をテーマとして全3回の講座を県内3会場で開講しました。沼津会場と静岡会場は終了し、浜松会場は開催中です。

[生涯学習教育研究センター]



**■しずだいで飛び教室inしずおか未来学園**

日時：9月18日（日）9:00～12:15

場所：静岡聖光学院

静岡青年会議所主催の「しずおか未来学園・夢未来塾」に協力し、出前講座を実施しました。坂本健吉理学部教授が実演を交えた講義で、小学生に科学の楽しさ・化学の面白さを伝えました。

[生涯学習教育研究センター]



**■静岡市市民大学リレー講座**

静岡市及び県内4大学主催の平成23年度市民大学リレー講座「文明と環境～人類社会が向かうべき未来とは～」に企画協力し、9月24日には楊海英人文学部教授による「モンゴルの遊牧文明と環境」が開講されました。[生涯学習教育研究センター]

**■静岡大学・中日新聞連携講座「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために」**

**【第1回】震災後の再生可能エネルギーへの期待と省エネ**

日時：10月 8日（土）14:00～16:00

**【第2回】緩い絆創りで地域を元気にする～社会起業家「ブリッジパーソン」の役割～**

日時：11月12日（土）14:00～16:00

**【第3回】東日本大震災を起こした地震とその影響～「大地震の時代」をどう生きるか～**

日時：12月10日（土）14:00～16:00

**【第4回】東日本大震災と災害ボランティア活動～山元町の写真洗浄・複写プロジェクトより～**

日時：1月 7日（土）14:00～16:00

場所：アクトシティ浜松（第1、3、4回）

静岡大学浜松キャンパス（第2回）

「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために」をテーマに全5回の講座を開催中です。4回まで終了し、第5回が2月に開催されます。

[地域連携協働センター]



**■平成23年度 防災・日本再生シンポジウム**

**【第1回】** 日時：10月16日（土）13:30～16:30

場所：静岡商工会議所

**【第2回】** 日時：11月 5日（土）13:30～16:30

場所：沼津市立図書館

**【第3回】** 日時：11月 6日（日）13:30～16:30

場所：プレスタワー（浜松）

国立大学協会と共催で「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」と題しシンポジウムを開催しました。

[地域連携協働センター]



**■公開セミナー「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」**

**【第2回】** 日時：10月16日（日）9:30～12:00

場所：登呂博物館

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」を継続実施しています。第1回（6月19日、静岡キャンパス）に引き続き第2回を開催しました。

[生涯学習教育研究センター]

**■公開講座「富士山静岡空港開港で新時代を迎えた静岡県の観光を考える」**

**【第1回】** 静岡県の観光と空港利用の課題を探る

日時：10月20日（木）13:30～16:00

場所：JR静岡駅ビル

**【第2回】** 国際観光による静岡県西部地域の活性化

日時：11月24日（木）14:00～16:00

場所：アクトシティ浜松

**【第3回】** 観光産業とホスピタリティ・マネジメント

日時：12月 2日（金）13:30～16:00

場所：三島商工会議所

大学ネットワーク静岡の委託を受け、県内の浜松大学、日本大学（短期大学部）と共同で静岡、浜松、三島の3カ所で開催しました。いずれの回も70人程の観光関連業者、自治体関係者、一般市民、学生などの参加があり、熱心な質疑応答が講義終了





後まで行われました。[地域社会文化研究ネットワークセンター]

### ■静岡健康・長寿学術フォーラム

日時：10月21日（金）・22日（土）

場所：静岡県コンベンションアーツセンター

静岡県立大学・浜松医科大学・静岡大学の3校が連携しフォーラムを開催しました。本学からは河岸洋和創造科学技術大学院教授がセッションの講師を、杉浦敏文電子工学研究所教授がセッションの座長を担当しました。 [地域連携協働センター]

### ■東海地震防災セミナー

日時：11月10日（木）13:30～16:00

場所：静岡商工会議所5階ホール

「東日本大震災に学ぶ」をテーマに、理学部の里村幹夫教授が座長として講演しました。 [防災総合センター]

### ■キャンパス生物展「平成21～23年度静岡キャンパス生物調査の成果より」

期間：11月14日（月）～25日（金）

場所：静岡大学キャンパスミュージアム

平成21年度から3年度に渡っ

て実施された静岡キャンパスの生物調査の成果をもとに企画展を開催しました。

[キャンパスミュージアム]



### ■吉田町大学特別公開講座「震災に備える、震災後を生きる」

【第1回】東日本大震災と想定東海地震・連動地震

日時：12月 8日（木）19:30～21:00

【第2回】東海地震について考えるための防災ゲーム

日時：12月15日（木）19:30～21:00

【第3回】正しく測って適切に怖がろう～もしも、の時だけではない放射線計測～

日時：12月22日（木）19:30～21:00

【第4回】環境・エネルギー問題を考える～本当のエコライフって何だろう？～

日時：1月12日（木）19:30～21:00

場所：吉田町中央公民館（各回共通）

平成23年度大学特別公開講座に協力をし、講座「震災に備える、震災後を生きる」（全6回）

を企画しました。4回まで終了し、第5回が1月19日に、第6回が1月26日に開催されます。

[生涯学習教育研究センター]



### ■日経グローバル「大学の地域貢献度ランキング調査」で全国25位になりました

日本経済新聞社産業地域研究所が全国731大学を対象に、大学が研究成果や人材を地域に役立てる「地域貢献度」について調査（回答は489校）したランキングが、地域情報専門誌『日経グローバル』（発行：日本経済新聞社産業地域研究所）に掲載されました。静岡大学は、総合ランキング25位（国立大学法人中では16位）、ボランティア・防災項目で17位となりました。 [地域連携協働センター]

### ■日経BPコンサルティング「大学ブランド・イメージ調査2011～2012（北陸・東海編）」のイメージ項目「地域社会・文化に貢献している」で第1位になりました

日経BPコンサルティングは、「首都圏」、「近畿」、「北関東・甲信越」、「北陸・東海」、「中国・四国」、「九州・沖縄・山口」の6地域403大学を対象に、大学のブランド・イメージ調査を行いました。静岡大学は、北陸・東海編（調査対象65校）で総合6位、イメージ項目「地域社会・文化に貢献している」で昨年度に引き続き1位となりました。 [地域連携協働センター]

## 地域向けイベントのお知らせ（24年1月～3月）

### ■吉田町大学特別公開講座

【第5回】東日本大震災と地域再生～静岡「原発」地から～

日時：1月19日（木）19:30～21:00

【第6回】市民協働による地域再生～絆づくりの視点から～

日時：1月26日（木）19:30～21:00

場所：吉田町中央公民館

### ■サイエンスカフェ in静岡

【第60話】「はやぶさ」から「はやぶさ2」へ～新たな挑戦の始まり～

日時：1月19日（木）18:00～19:30

【第61話】「早い光」と「遅い光」

日時：2月23日（木）18:00～19:30

【第62話】動物はなぜ動く？

日時：3月22日（木）18:00～19:30

場所：静岡市産学交流センター

URL：<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/sciencecafe/>

### ■地域連携応援プロジェクト成果報告会

日時：1月26日（木）17:30～20:00

場所：静岡大学静岡キャンパス&浜松キャンパス[TV会議]

URL：<http://www.crc.shizuoka.ac.jp/others00117.html>

### ■浜松RAIN房講演会 君たちにもできる！～身近な自然の再生

日時：1月28日（土）14:00～15:30

場所：浜松科学館

URL：<http://train1.eng.shizuoka.ac.jp/>

### ■静岡大学・コープしずおか連携講座「くのち」と環境を考える」

【浜松会場第3回】いのちの森を守る闘い～南方熊楠の思想～

日時：2月18日（土）10:30～12:00

場所：静岡大学浜松キャンパス

URL：<http://www.lc.shizuoka.ac.jp/kouza00078.html>

### ■静岡大学・中日新聞連携講座「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために」

【第5回】地域の絆でリスク社会を乗り越える

日時：2月18日（土）14:00～16:00

場所：静岡大学浜松キャンパス

URL：<http://www.lc.shizuoka.ac.jp/kouza00074.html>

### ■ふじのくに防災学講座

【第44回】日時：2月18日（土）10:30～12:00

【第45回】日時：3月17日（土）10:30～12:00

場所：静岡県地震防災センター

### ■公開講座 家庭果樹を楽しもう！！～果樹のせん定教室～

日時：2月25日（土）9:00～12:00

場所：静岡大学農学部附属フィールド科学教育研究センター  
藤枝フィールド

### ■平成23年度中部地域災害科学研究集会

日程：2月29日（水）

場所：静岡県地震防災センター

URL：<http://www.disaster-i.net/event/20120229/>

### ■公開講座 ノルディックウォーキング&エクササイズと里山自然体験

【第4回】日時：3月13日（火）9:00～16:00

【第5回】日時：3月27日（火）9:00～13:00

場所：静岡大学静岡キャンパス

### ■市民開放授業説明会

【静岡】日時：3月26日（月）13:30～14:30

場所：静岡市産学交流センター

【浜松】日時：3月27日（火）14:00～15:00

場所：静岡大学浜松キャンパス

## 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

昨年5月、地域連携協働センターでは「地域連携応援プロジェクト」という学内事業を公募し、7件のプロジェクトを採択しました。今年1月26日にこの中のいくつかのプロジェクトが成

果を報告します。教育・研究をベースとし、地域の方々とともに活動する静大の学生・教職員の報告を是非聴いていただければと思っています。詳しいプログラムは下記をご覧ください。

<http://www.crc.shizuoka.ac.jp/others00117.html>

[研究協力課 森本 真弘]

発行日	2012年1月20日
発行	静岡大学地域連携協働センター
編集	森本 真弘（研究協力課研究支援係）
連絡先	〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学学術情報部研究協力課研究支援係 ☎054-238-4902 E-mail: <a href="mailto:ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp">ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp</a>
ウェブサイト	<a href="http://www.crc.shizuoka.ac.jp/">http://www.crc.shizuoka.ac.jp/</a>